スケープゴーティング現象に着目した土木批判意識の基礎的分析

田中　皓介[1]

[1]正会員　東京理科大学嘱託助教 理工学部土木工学科（〒278-8510 千葉県野田市山崎2641）
E-mail:tanaka.k@rs.tus.ac.jp

近年の日本では土木に対する逆風世論が根強く存在しているものと想定されるが，メディア等で見られる土木批判の中には，その非効率性や不公正さなどの，批判されるべき論点も存在する．一方で，度の過ぎた批判や，事実に基づいた批判とは言えないものなども散見される．理性的で建設的な批判であれば，その対象の改善が促されることも期待されるが，非理性的なバッシングであれば，土木事業が過剰に縮減され，真に必要とされる事業実施が阻害されることが懸念される．そうした非理性的な批判がなされる心理的な背景として本稿ではスケープゴーティング現象に着目する．既往研究で指摘されているスケープゴーティング発生要因を抽出し，土木を対象としたスケープゴーティング言説に対する意識調査を実施し，発生要因とスケープゴーティング意識との関係を分析する．

Key Words : *public works, scapegoating, questionnaire survey*

1. はじめに

土木事業あるいは公共事業は，社会的・経済的基盤を整備し，良質な生活空間の構築や，自然災害に対して安心安全な国土形成のために行われるものであり，現代の日本においても重要な役割を果たしている．特に近年は，毎年のように日本の各地で発生する豪雨災害や，東日本大震災や熊本地震からの復興，今後その発生が予測されている首都直下地震や南海トラフ地震に対する防災事業, さらには 2012 年の笹子トンネルの事故が契機となり顕在化したインフラの老朽化対策など，国を挙げて取り組むべき喫緊の課題も多く見られる．

しかし，近年の日本の公共事業費はピーク時の半分以下の水準に留まっており，真に必要な事業の実施を困難にしていることが懸念される．

その要因として，土木事業に対しては国民が抱いている否定的な印象の影響が挙げられる[1)]．さらにそうした世論に対して少なからぬ影響力を持つ新聞報道が，公共事業に対して否定的な報道傾向に偏向していることもまた指摘されている[例えば2), 3)]．

そうした土木に対する批判の中には，公共事業に関連した不正な金銭の授受や，ずさんな需要予測に基づく事業計画など，批判されるべき点があることは否定しない．しかし，事実に照らし合わせれば明らかに間違いと分かる批判や，明らかに度が過ぎた批判など，非理性的な批判がなされていることもまた否定しがたい事実である．

もちろん, 理性的で建設的な批判であれば, その対象の改善が促され，より良い土木事業・公共事業の実施に繋がることも期待される．しかし，非理性的なバッシングは，不当に対象を貶め，必要性や妥当性についての客観的な事実に基づく理性的な議論を困難とし，真に必要とされる公共事業実施が妨げとなることが想定される．

土木批判について，田中ら [3)]の既往研究を参考に，新聞報道における，「ムダ」や「バラマキ」といったネガティブなキーワードの推移を見ると，1995 年が一つの転換期となり，それ以降，新聞報道において土木バッシングが過熱している様子がうかがえる．

この 1995 年について，内閣府が毎年実施している国民生活に関する世論調査[4)]を見ても，人々の将来の見通しの「良くなる」を「悪くなる」が上回るようになった時期であることが分かる（**図-1** 参照）．

日本における出来事を見れば, 阪神・淡路大震災やオウム真理教による地下鉄サリン事件の発生も 1995 年である．さらに，人口の推移を見ても，総人口のピークは 2004 年ではあるものの, 生産年齢人口のピークはそれよりも前の 1995 年である[5)]．

こうしたことから 1995 年が日本における一つの時代の転換期であったと考えられるが，土木バッシングの過熱との時期的な一致は単なる偶然なのであろうか．

ここで，土木事業バッシング世論と社会的な閉塞感との関係を考えるにあたって，本研究では「スケープゴーティング」と呼ばれる心理現象に着目する．「スケープゴート」という言葉は，一般には「他人の罪を負わされ身代わりとなる者」（大辞林）を意味する．その典型的な例としては，ナチスドイツによるユダヤ人の迫害や，中世ヨーロッパにおける魔

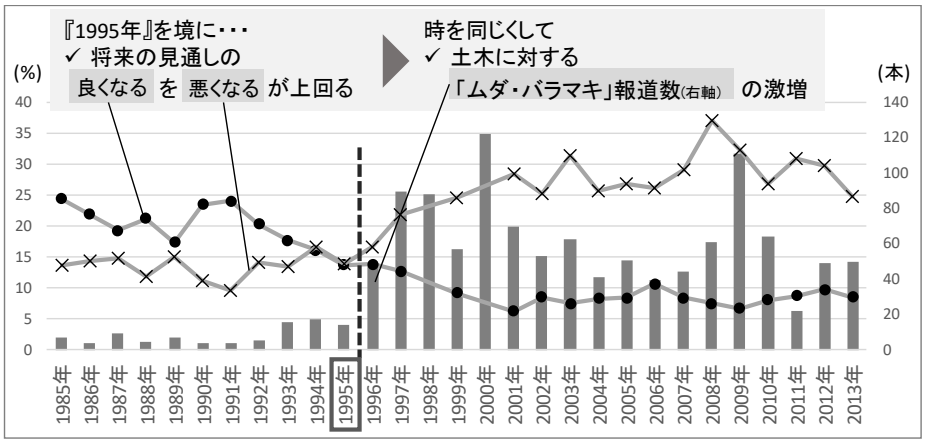

図-1　国民の今後の見通しと土木バッシング報道

女狩り，あるいは卑近な例では，いじめの問題が挙げられる．それらは時に，不合理で理不尽な非難が横行する状況である．なお，学術的には，スケープゴーティングについて，例えば Allport (1954)は「自分自身を不安にさせる思考や衝動を誰かに帰属させること」と定義している．

以上のように，日本における土木バッシングの不合理さを考えるとき，そのバッシング世論の発生時期と時代背景を踏まえると，スケープゴーティング心理の影響が想定される．そこで本研究では，土木バッシング世論におけるスケープゴーティング現象を明らかにすべく，人々の意識調査を行う．

2. 既往研究のレビューと要因抽出

本稿では，土木バッシング世論の分析のために，スケープゴーティングと呼ばれる心理現象に着目し，メカニズムや促進要因が，土木を巡る批判意識において，実際の人々の意識において作用しているのかを，アンケート調査により実証的に明らかにすることを目指す．

それに先立ち，本章ではまず，既往文献[6]に基づき，スケープゴーティングの動機や対象の特徴について整理を行い，その要素を抽出する．抽出した要素は表-1 に示すが，これらの要素が土木バッシング意識に及ぼす影響を分析することで，人々の批判意識を形成するスケープゴーティング現象を明らかにする．

(1)　スケープゴーティングの動機

スケープゴーティング現象は，精神分析理論[7]と欲求不満攻撃理論[8]から説明できる（釘原, 2014, p.15）．

自分の中にある邪悪な思考や感情を，他の弱者に投影して非難することで，自分が理想的人間であると思い込もうとするのが，精神分析理論による説明である．また，外的条件によって引き起こされた欲求不満を他者への攻撃により責任を押し付けようとするのが欲求不満攻撃理論による説明である．

土木バッシングにおいては，**第 1 章**で示したように，社会的な出来事に伴って生じている可能性が想定されるため，後者の欲求不満攻撃理論に基づいて検討を行う．その際，日本の閉塞感を示す指標としては，労働力人口のピークアウトもさることながら，重要な指標として名目 GDP の停滞が挙げられる．名目的な経済成長の停滞は可処分所得の減少など，人々の生活実感にも直結するものと想定される．

それらの理論および日本の社会状況を踏まえて，人々が心理的傾向として有するスケープゴーティング現象を測定するために「景気対策でおカネを使っても、土木事業者が甘い汁を吸っているせいで、日本の景気は良くならないのだと思う」という文章に対する同意の度合いをスケープゴーティング指標（以下，土木 SG 指標）として定義する（**表-1** No.1）．

一方で，本研究では，バッシング心理の起点となる不安を測定するために，内閣府の調査でも尋ねられている自身の生活および日本経済に対する見通しおよび現在の生活の満足度を尋ねる（**表-1** No.1）．

(2)　スケープゴーティングの対象

上述の通り，スケープゴーティングは何かしらの不安が生じたときに，たとえそれが不合理であろうと，何者かに責任を帰属することで安心感を得ようとするものである．そのため，人々の安心感の回復のためには，そのバッシング対象は，イメージが曖昧で強そうな人や集団であることが求められることが示されている（釘原，2014，p.24）．逆に言えば，弱々しい対象を叩いたとしてもコントロール感の回復は望めず，また対象が明瞭であれば本当の責任者ではないことも明瞭となり，理不尽なバッシングは生じないものと考えられる．

そこで本研究では，対象の社会への貢献がハッキリとイメージできるかを問うとともに，対象が社会に対して大きな影響力を持っていると思うかを尋ねる（**表-1** No. 2~4）．

対象についてはさらに，多数者から嫌悪感をもたれている異質者・異端者であることが指摘されている（釘原，2014，p.28）ため，嫌われても仕方のない存在だと思うか否かを問う（**表-1** No. 7）．加えて，攻撃しても安全な対象であることも挙げられている（釘原，2014，p.28），削減した際に社会に対して大きな悪影響があると思うかどうかを問うこととした（**表-1** No. 8）．

また, 外部に敵を作り出すことで, 内部の凝集性が高まり高揚感が得られ，社会の安寧を保つのに役立つことが指摘されているため，私たち市民のために働いてくれていると思うかを尋ねる（**表-1** No. 9）.

(3) スケープゴーティングの促進要因

そもそもスケープゴーティングとは，不安が生じたときに責任を押し付けることで安心感を得ようとする心的傾向であるが，そもそも，人間に生まれながらにして備わっている原因推測を行おうとする心理があるからこそ，こうした責任の押し付けが生じることが指摘されている（釘原，2014，2 章 2 節）. そのため, 原因推測傾向の測定も行う（**表-1** No. 6）. 併せて，世の中が複雑でコントロールしきれないという漠然とした不安が，たとえそれが不合理だとしても，何かしらの対象に責任を押し付けることの誘因になると考えられる（釘原，2014，2 章 6 節）ため，社会のコントロール不可能性認知も併せて尋ねる（**表-1** No. 5）.

また，釘原はスケープゴーティングをする側のパーソナリティについても言及しており，特に，権威主義的性格の人が差別的言動を行うことを指摘している．そこで本研究では，権威主義尺度として吉川[9]を参考に尺度を設定する（**表-1** No. 12-17）.

表-1　変数名と質問内容

No	変数名	質問内容
1	土木 SG 指標	景気対策でおカネを使っても、土木事業者が甘い汁を吸っているせいで、日本の景気は良くならないのだと思う
2	生活見通し	あなたの生活は、これから先、どうなっていくと思いますか。
3	日本見通し	日本の経済は、これから先、どうなっていくと思いますか。
4	総合満足度	全体として、現在の生活に満足している
5	予測不可能性	複雑な現実社会は, 不確実で予測不可能だと思う.
6	原因推測傾向	世の中で起きるできごとには何かしらの原因があるはずだと思う.
7	嫌われ者認知	土木事業者は、多くの人に嫌われても仕方のない人たちだと思う
8	安全対象認知	土木事業費を削減しても、社会がものすごく悪くなることはない、と思う
9	印象鮮明性	土木事業者が、社会に対して貢献している姿をハッキリとイメージできる
10	強者認知	土木事業者は、社会に対して大きな影響力を持っていると思う
11	味方認知	土木事業者は、私たち市民のために働いてくれていると思う
12	権威_敬意	権威ある人々にはつねに敬意を払わなければならない
13	権威_保守	以前からなされてきたやり方を守ることが、最上の結果をうむ
14	権威_両親	子供のしつけで一番大切なことは、両親に対する絶対服従である
15	権威_目上	目上の人にはたとえ正しくないと思っても従わなければならない
16	権威_伝統	伝統慣習にしたがったやり方に疑問を持つ人は結局は問題を引き起こすことになる
17	権威_指導者	この複雑な世の中で何をすべきかを知る一番よい方法は、指導者や専門家に頼ることである

3. アンケート調査

(1) 調査概要

第 2 章で設定した各変数の関係性を分析することで，スケープゴーティングとしての土木バッシング傾向を実証的に示す．そのために，Web アンケート調査(マクロミル)により人々の意識調査を行った.

調査は 2020 年 1 月 23 日～24 日に行い，対象は，調査会社に登録されているモニターで，居住地域 5 水準（北海道・東北／関東／中部／近畿／中国・四国・九州），性別 2 水準（男性／女性），年代 3 水準（20-39 歳／40-59 歳／60 歳以上）を設定し，30 分割（=5×2×3）した各属性の実人口に比例するようにサンプル数を確保した．有効回答は 939 サンプルであった（女性比率 52.2%，平均年齢 51.2 歳(標準偏差 15.4)）.

(2) 質問項目

質問項目は, **表-1** に示す各項目であり, No.1 と No. 4-17 は，7 件法（7：とてもそう思う ／6：そう思う／5：どちらかと言えばそう思う／4：どちらとも言えない／3：どちらかと言えばそう思わない／2：そう思わない／1：全くそう思わない）で尋ね，No.2 と No. 3 については，内閣府の調査に合わせて 4 段階（3：良くなっていく／2：同じようなもの／1：悪くなっていく／0：わからない）で尋ねた.

なお，土木事業者だけでなく他の対象との比較も行うため，しばしばバッシングの対象となる政治家と公務員についての意識も併せて尋ねた．具体的には，No. 1 および No. 6-11 の質問について，「土木事業者」を「政治家」および「公務員」に入れ替え，すべての回答者が 3 つの対象についての意識を回答するようにしている．その際，対象間で比較をするにあたって回答順序による偏りを防ぐため，回答者によって「土木事業者」「政治家」「公務員」はランダムに表示し回答を要請した.

4. 分析結果

(1) 基礎集計

表-2 に各変数の平均値を示す. **表-2** より土木事業者，政治家，公務員に対する意識を比較すると，いずれの変数も，政治家に対する認識が最もネガティブであり，土木事業と公務員に対する印象については，平均値で見れば同程度のものといえる.

どちらとも言えないが 3 であり数字が大きいほど

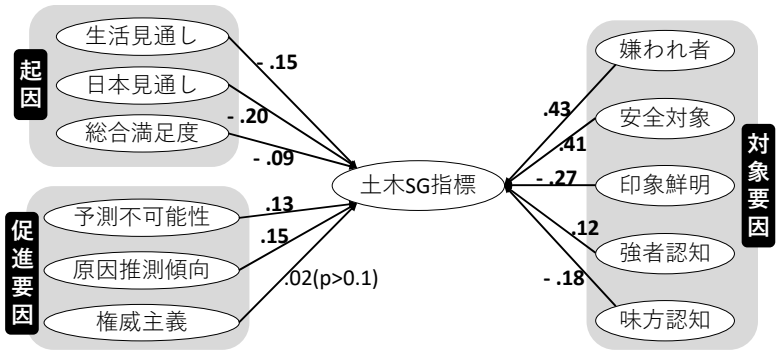

図-2　想定される因果構造と変数間の相関係数

表-2　各変数の平均値

変数	平均値		
生活見通し※	1.69		
日本見通し※	1.41		
総合満足度	4.06		
予測不可能性	5.26		
原因推測傾向	5.48		
権威主義	3.24		
	土木	政治家	公務員
SG 指標	4.63	5.59	4.87
嫌われ者認知	3.57	4.86	3.89
安全対象認知	4.24	5.39	4.66
印象鮮明性	4.11	2.95	3.79
強者認知	4.12	5.17	4.19
味方認知	4.30	3.15	4.17

※は 3 段階，他は 7 段階

同意傾向が強いことを意味しているが，各平均値の意味について，政治家に対する印象を説明すると，嫌われ者であることは仕方なく，数が減ったところで大きな影響もなく，どのような貢献をしているのかイメージできず，世の中への大きな影響は持ち，市民のために働いているとも思えず，そして，政治家が甘い汁を吸っているせいで日本経済は良くならないのだ，ということ一般的な印象として抱かれているといえる．

(2)　相関分析による土木 SG 現象の検証

図-2 に，**表-1** で示した各変数の関係を図示し，さらに，意識調査結果に基づき各変数間の相関係数を示す．

まず，相関係数については，権威主義を除いたすべての変数について，想定した通りの符号で，有意($p<0.01$)な影響であることが示唆された．本稿で想定したような土木に対するスケープゴーティング的心理傾向を，一般の人々が有していることを支持する結果が得られた．

ただし，権威主義については，有意とはならず，また符号についても想定とは逆のものとなり，本研究でその影響可能性は示されなかった．

a)　起因変数の影響

続いて各個別の変数の影響の大きさについて考察を行う．まず，見通しや満足度などのスケープゴートの起因となる変数について着目すると，日本見通し変数の影響が強いこと示す結果である．つまり，日本経済の先行きに不安を感じるほどに，土木事業者が甘い汁を吸っているせいで日本の景気が良くならないのだ，という批判的な意識が強くなることを意味する．

b)　対象要因変数の影響

対象に対する意識に着目すると，最も影響が大きいのが嫌われ者認知であり，次いで，安全対象認知が大きな影響があることが示唆された．これは，多くの人に嫌われても仕方がない，という認知や，土木事業者が減ったところで問題ないだろうという認知が強いほどに，土木事業者が甘い汁を吸っているせいで日本の景気が良くならないのだ，という批判的な意識が強くなることを意味するが，すなわち土木事業者をバッシングすることの罪悪感のなさが，バッシング傾向を強めていると解釈することができよう．

c)　促進要因変数の影響

促進要因変数に着目すると，他の変数と比較して顕著なものではないが，世の中は予測できないという不安や，物事には何かしらの原因があるはずだという原因追及意識が，土木バッシングに一定の影響を与えていることが示唆された．

(3)　各対象の相関係数の比較

次に，スケープゴーティングの対象を，土木事業者だけでなく，政治家および公務員とした場合とでの比較を行うことで，土木バッシングの相対的な特徴の分析を行う．SG 指標と各変数の相関係数を，対象別に示す（**表-3**）．

a)　起因変数の影響の比較

まず，起因となる各変数の相関係数に着目すると，いずれの対象においても，日本経済の見通しが最も影響力が大きいことが分かる．一方で，各変数に着目して，3 つの対象のうち最も相関係数が大きいのは，生活の見通し変数は土木 SG 指標，日本経済見通し変数は政治家 SG 指標，総合満足度は公務員 SG 指標とそれぞれ異なることが分かる．その中でも，顕著に大きいのが，日本経済見通しと政治家 SG 指標との相関係数である．これは必ずしも不合理なバッシングとも言えず，日本経済全体に大きな影響力を持つ政治に対して不満を抱いていることが反映されたものと考えられる．

表-3　SG 指標と各変数の相関係数

	土木	政治家	公務員
生活見通し	**- .150*****	- .128***	- .099***
日本見通し	- .202***	**- .301*****	- .163***
総合満足度	- .086***	- .139***	**- .142*****
予測不可能性	.127***	**.239*****	.104***
原因推測傾向	.145***	**.213*****	.066***
権威主義	.021	**- .103*****	.042
嫌われ者認知	.432***	.494***	**.553*****
安全対象認知	.405***	.386***	**.441*****
印象鮮明性	- .270***	**- .468*****	- .416***
強者認知	**.118*****	.069**	.039
味方認知	- .184***	**- .458*****	- .402***

注 1）***：p< .01，**：p< .05，*：p< .10
注 2）太字下線は，各変数について 3 つの対象の中で相関係数の絶対値が最も大きいことを示す

b)　対象要因変数の影響の比較

対象に対する意識との関係に着目すると，他の対象と顕著にその影響の大きさが異なるのが，印象鮮明性および味方認知と，土木 SG 指標との相関係数であり，いずれも，他の対象と比べて相関係数が顕著に低い．つまり，政治家や公務員については，どんな貢献をしているのかがイメージできたり，あるいは自分たちのために働いていると思えたりすれば，スケープゴーティング的意識が弱まる傾向が一定程度存在することを意味する．しかし，土木事業者に限っては，その貢献が認知されたとしても，それが人々のバッシング意識を軽減する効果は，相対的に弱いということを意味するものと解釈できる．

逆に，土木 SG 指標との関係が，政治 SG 指標や公務員 SG 指標に比べて相対的に強い変数として，強者認知が挙げられる．つまり，何か大きな影響力を持っているのではないか，という印象が，人々をバッシングに向かわせる傾向が，相対的に強いものと解釈できる．

c)　促進要因変数の影響の比較

促進要因変数に着目すると，予測不可能性と原因予測傾向については，特に政治家を対象とした際に強い影響を与えている．これは表-1 で示したように，土木事業者および公務員に比べて，政治家に対する強者認知が平均的に高いことを踏まえれば，より大きな影響力を持つ考える者に，責任を帰属させようとする心理が強く働くものと考えられ，理にかなった結果と考えられる．

なお，権威主義については，土木 SG 指標および公務員SG指標ともに有意な相関が見られず，また，政治家 SG 指標に対しては事前の想定とは逆の負の相関となっている．今回，差別意識の促進要因と想定したものの，政治家や公務員など，公共の権威そのものが対象となっているため，権威主義意識が強い者が，権威に対して批判しない傾向にあるのは合理的な心的傾向と考えられる．こうした傾向が，権威主義がスケープゴーティング心理に及ぼす影響を相殺ないしは上回ったものと解釈できる．

5.　まとめ

本研究では，1990 年代中期からの，社会情勢および土木バッシング報道の変節を受け，それらをつなぐものとしてスケープゴーティング的心理傾向の存在を仮説として挙げ，その実証的な検証を試みた．

既往研究から抽出した要因はおおむね支持される結果となり（図-2），土木バッシングがスケープゴーティング的心理傾向により生じている可能性が支持された．その中でも特に，土木事業者をバッシングすることの罪悪感のなさが，バッシング傾向を強めていることが示唆された．

一方で，政治家や公務員が対象の場合との比較結果から，明らかになった土木バッシングの特徴としては，土木の貢献が認知されたとしても，それが人々のバッシング意識を軽減する効果は，政治家や公務員に比べて相対的に弱いということが示唆された．

今後は，スケープゴーティング的な不条理なバッシング心理の軽減に向け，有効な方策の検討および実証が求められる．

謝辞

本研究は JSPS 科研費 JP19K15117 の助成を受けたものです．ここに記し謝意を表します．

参考文献

1)　田中皓介，神田佑亮：公共事業を巡る各種言葉のイメージ変化要因に関するパネル分析，土木学会論文集 F4（建設マネジメント），Vol.70，No.4，pp.I_13-I_25，2014.
2)　田中皓介，中野剛志，藤井聡：公共政策に関する大手新聞社説の論調についての定量的物語分析，土木学会論文集 D3，Vol69，No.5，pp.353-361，2013.
3)　田中皓介，神田佑亮，藤井聡：公共政策に関する大手新聞社報道についての時系列分析，土木学会論文集 D3(土木計画学)，Vol. 69，No. 5，pp. I_373-I_379，2013.
4)　内閣府．“国民生活に関する世論調査”．http://survey.gov-online.go.jp/h26/h26-life/2-2.html, (参照 2020-3-3)
5)　総務省．“長期時系列データ 我が国の推計人口（大正 9 年～平成 12 年）”．https://www.stat.go.jp/data/jinsui/2.html, (参照 2020-3-3)
6)　釘原直樹（編著）：スケープゴーティング―誰が，なぜ「やり玉」に挙げられるのか，有斐閣，2014.
7)　Dollard, J., Miller, N. E., Doob, L. W., Mowrer, O. H., & Sears, R. R..: Frustration and aggression, New Haven , CT: Yale University Press, 1939.
8)　Gollwitzer, M.：Do normative transgressions affect punitive judgments? An empirical test of the psychoanalytic scapegoat hypothesis, Personality and Social Psychology Bulletin, Vol. 30, No.12, pp.1650-1660, 2004.
9)　吉川徹：現代社会における権威主義的態度尺度の有用性:環境保護意識、ヘルス・コンシャスの分析視角として，ソシオロジ，Vol. 39，No. 2，pp. 125-137，1994.

(Accepted March 08, 2020)

BASIC ANALYSIS OF CRITICISM OF CIVIL ENGINEERING FOCUSING ON SCAPEGOATING

Kosuke TANAKA